

# 豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手を育成するには — 2030年の社会、学校教育を見据えたユネスコスクール活動への提言

## 2030年—学校教育のグランドデザイン

2020年度、小学校を皮切りにスタートした新しい学習指導要領は、2030年頃の社会の在り方を見据えながら、これから子供たちが活躍することとなる将来について見通した姿を考へて「持続可能な社会の創り手」の育成という理念を掲げました。

各学校が機関包括的な取組を進めるために社会に開かれた教育課程づくりに取り組み、教科等横断的な視点を踏まえたカリキュラム・マネジメントを工夫すると同時に、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を進めることにしました。教育課程全体や各教科等の学びを通じて「何ができるようになるのか」の観点から、「知識及び技能」だけでなく「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」などの3つの柱から「資質・能力」を総合的にはぐくみます。今回の学習指導要領の改訂は、持続可能な未来を構築する大きな力となることが期待されています。

## 「岡山宣言」を発展させSDGsを目指す

ユネスコスクールは、文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会から、わが国のESDの推進拠点として位置付けられています。そして、ユネスコスクール全国大会は、全国のユネスコスクール関係者が積極的に情報共有、意見交換をし、探究する場として毎年開催されています。2014年に開催されたユネスコスクール世界大会では、ESDを日本の教育を変えていくための原動力とし、その推進のためのユネスコスクールの活動について「ユネスコスクール岡山宣言」が制定されました。そこから5年以上が経過し、新しい学習指導要領がスタートしたこの時期に、この宣言に含まれたコミットメント（誓い）、提案を検証し、学習指導要領で目指している持続可能な社会の創り手の育成（ESD）の進め方と、その推進拠点であるユネスコスクールの今後の活動について改めて提言をいたします。

## 3つの観点から今後の活動を展望する

岡山宣言には、「日本のユネスコスクール：私たちのコミットメント（誓い）」「学校によるさらなるESD推進：ユネスコスクールからの提案」として合わせて13の項目が示されました。第12回大会では、この13項目を学習指導要領、ESDの推進などの角度から次の「3つの観点」を分析の視座としました。

- (1) 解決方法を探る、行動につなげる
- (2) 各学校の成果等を学校間、地域、国内外へつなげる
- (3) 学校の実践、取組を評価し、成果を広める

この観点をより一層具現化するために、第12回大会のディスカッション、実践研究、分科会等における意見交換、研究協議を通して、今後の取り組みへのサゼスションを示します。

## 2030年の社会、学校教育を見据えたユネスコスクール活動への提言

2030年の社会のあり方を見据え、学習指導要領が「持続可能な社会の創り手」の育成という理念を掲げ、全国の学校教育を通じてESDの推進に取り組むこととなった。これはユネスコスクールがESDの推進拠点として研究や実践、あるいは交流に取り組んできた成果でもある。このことを踏まえ、ユネスコスクールはその総力を挙げて、学習指導要領の理念とその実現に向けた教育実践が全国の学校教育に行きわたるよう、ESDの推進拠点としての役割を一層重視し、全力で取り組んでいかなければならない。

### (1) 解決方法を探る、行動につなげる

- ・学習指導要領で示された「教科等横断的なカリキュラム・マネジメントによる教育活動の質の向上」「主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善」はESDの本質につながる。これを踏まえ、全ての学校が教育目標を含めた教育課程の見直しを図り、子供たちの学びの充実を図れるよう、ESDの推進拠点として役割を果たしていく。
- ・ESDとしての学びを充実し、価値・行動・ライフスタイルの変容を促す
- ・当事者意識をもって、地球規模の課題について考え、行動する
- ・ユネスコ学習の4本柱+1を意識した実践を行う
- ・自然との対話を重視し、活動体験を重ねる

- ・立ち止まり、旧来の教育活動やそこでの「当たり前」を見直し、再方向付けする
- ・SDGsの目標から活動を工夫し、関わりを深める
- ・持続可能な学校、持続可能な教育、持続可能な教職員の働き方を実現する
- ・教師は、「子どもの学び心に火をつける役割」に徹する

## **(2) 各学校の成果等を学校間、地域、国内外へつなげる**

- ・ICTの活用等を図り、国内外の学校や関係機関とのつながりを一層重視する
- ・教師は教えるだけではなく、自分自身のために学ぶ機会を大切にする
- ・ユネスコスクールやESD実践校がオンライン等でつながり、実践交流や意見交換をする
- ・ユネスコスクールやESD実践校がオフラインでつながり、実践交流や意見交換をする
- ・ユネスコスクール地域ネットワークや地区大会等を活用して成果を共有する
- ・ユネスコスクール・ESD/SDGsユースがつながり合い、情報交換やプログラム作りをする
- ・アクセスしやすい交流広場をWeb上につくる
- ・ユネスコスクール校長会を結成し、持続可能なユネスコスクール活動を実現する

## **(3) 学校の実践、取組を評価し、成果を広める**

- ・子どもに高い目的意識をもたせる
- ・ESDの活動や学びを各学校に合った方法で評価する
- ・ルーブリックやポートフォリオ評価を活用する
- ・教員の評価だけでなく、児童生徒の自己評価を行う
- ・サステイナブルマップを作成し、見直す視点とする
- ・学び続ける者をエンパワーする
- ・SNSでESD実践を積極的に発信するオンライン会議やオンラインセミナーを開催する
- ・1日の結果を気にせず、1年後の成果を見通す
- ・教師はイノベーター的なマインドセットを行う